

【資料】

平成25年度 林業研究・技術開発推進

北海道ブロック会議育種分科会

上田 雄介¹

平成25年度林業研究・技術開発推進北海道ブロック会議育種分科会は、9月25日に札幌市内のかでる2・7において開催された。会議には、林野庁、北海道庁、道総研林業試験場、同林産試験場、北海道森林管理局、森林総研北海道支所及び関係機関から39名が出席した。

会議の概要は次のとおりである。

育種事業の最近の動向

林野庁から林木育種事業を巡る最近の動向として、苗木安定供給推進事業の概要と、改正された間伐特措法に基づく特定母樹の増殖の実施の促進に関する基本方針の策定についての説明があった。林木育種センターからは、特定母樹の申請と指定後の原種配布についての考え方と、今後の高速育種運営会議のあり方について説明があった。

間伐特措法に関連した北海道地区の取り組み

北海道育種場から、特定母樹の申請状況と今後の予定、及び特定母樹指定後の原種配布の手続きについて説明した。また、北海道庁から、特定母樹の増殖の実施の促進に関する基本方針の策定状況と、特定増殖事業を反映した採種園整備の考え方について説明があった。

第2世代精英樹（エリートツリー）の選抜と普及

第3回北海道地区高速育種運営会議に相当する議事として、北海道育種場から、道総研林業試験場と連携して取り組んでいる第2世代精英樹候補木等の選抜状況を報告し、今後の選抜、原種の増殖・配布計画について説明した。北海道庁から、第2世代精英樹を用いた採種園造成計画について説明があった。また、高速育種運営会議で特定母樹の種苗の早期普及についても取り扱うこととし、高速育種運営会議設置要領を改正した。

平成24年度事業実績及び平成25年度計画

林木育種事業に関して、精英樹の選抜状況、採種園の造成・廃止及び管理、次代検定林調査、育種種子の生産と利用状況等について、それぞれ平成24年度の実績と平成25年度の計画を報告した。また、平成25年春季の国有林採種園及び道有林採種園の着花（果）状況について報告した。

平成25年度育種事業・研究の概要と成果トピックス

北海道育種場から、森林総合研究所の第三期中期計画に基づいて、平成25年度に取り組む「林木の新品種の開発」、「林木の育種技術の開発」、「林木のジーンバンク事業」の計画及び「種苗の生産及び配布」の5カ年計画について説明をした。トピックスとして、ヤナギ属2種のバイオマス生産品種の開発について紹介した。また、道総研林業試験場より、今年度の研究概要についての説明と、トピックスとして、ポット化によるカラマツ・グイマツ接ぎ木苗での着花調節技術の開発についての紹介があった。

提案・要望事項

北海道山林種苗協同組合や北海道庁から、①間伐特措法の特定母樹については申請中のグイマツのほか、北海道の主要な造林樹種であるカラマツ、トドマツ、アカエゾマツについても申請を、②特定母樹の原種については採種園造成のニーズに対応した安定供給を、③公営採種園の整備促進と支援を、④採種園の着花促進技術の開発と技術指導等を求める要望が出された。

情報提供・その他

平成25年9月3日～4日に開催された第51回北海道林木育種現地研究会の概要についての報告があった。また、北海道育種場から、林木育種センターが第14回自動認識システム大賞フジサンケイビジネスアイ賞を受賞した「ICタグ・二次元バーコードを利用した個体・系統管理システム」の概要について紹介した。

¹ うえだ ゆうすけ 森林総合研究所林木育種センター北海道育種場